



今月は、人々との自然な関わりを第一に、障害者の社会参加をぐつと身近にした宮本誠一さんをご紹介します。

あの出会いから障害者作業所をひらく

13年前、宮地小学校の教員だった宮本さんは、当時、阿蘇農業高校の聴講生だった自閉症の青年と知り合いました。その中で障害者の抱える問題にふれ、彼らの力になることを決意。教師を辞め、小学校近くの青年宅の一階を、かつての教え子や支援者と一緒に一年がかりで改築し、小規模作業所「夢屋」を始めました。

当時は県内でもめずらしい喫茶方式の作業所として注目を浴びました。地域に住む障害者や保護者が気軽に立ち寄り、障害者と健常者との交流の場になることを願った境のないつくりがその理由です。現在は、地域活動支援センターと

して市から委託をうけ、10人が利用登録、週5日運営しています。利用者の自立と生活力を育てることが目的の作業所ですが、周囲の人たちに与えた影響も大きく、ぬくもりを感じることができ、また発信できる場所として親しまれています。



▲宮地小での交流学習（生き方から学ぼう）の様子。勇気を出して自分を語るメンバーに児童からたくさん意見・質問、そして励ましが。

取り組み。やりがいこそが生きる力

作業所での仕事はパンの製造販売です。お客さまと会ってお金をいただくまでの営みの中で、やりがい、充実感を持ち、社会参加することを主眼にしています。また、

ここ数年、地域の小中学校との交流学習が増えています。昨年までに宮地小、中通小、山田小、内牧小、古城小、波野小、一の宮中、阿蘇中、阿蘇北中の児童・生徒の皆さんが作業所を訪れたり、こちらから出掛けたりして、パンづくりや手話の勉強、絵本づくりなど数々の授業を行っています。大津養護学校、小国養護学校からの職場実習生の受け入れも続いています。



メンバー手作りの焼き立てパンは美味しくて種類も豊富。ぜひ、お召し上がりください。『夢屋』22-3372(宮地小学校前)



どちらも、メンバーの思いや一生懸命さが伝わり、お互いに「また会いたい」と友情の輪が広がっています。開業から長い年月を経て、宮本さんがやってきてよかったと思える瞬間です。

して先生たちに話をする役目も定着。広報誌「夢屋だより」やホームページでの情報発信にも力を入れ、メンバー自らが書いた日誌を載せるなど、日ごろの活動の様子を伝えていきます。

作家としてペンをとる一面

宮本さんは、作業所運営の傍ら著述活動もしています。これまでの作品で県民文芸賞などを受賞。最近では小説「トライトーン」を

「市民の皆さまのご理解とご支援あつての夢屋ですから」と感謝の気持ちも積もらせ、メンバーの最高の笑顔を糧に明日も頑張る宮本さんです。

掲載は10年目を迎えます。また、阿蘇市教職員の人権学習の講師と

今後よろしくお願いします！

宮本 誠一さん

46歳、東黒川。NPO法人「夢屋プラネットワークス」代表。

